

（「広報うつのみや」（昭和25年4月1日発行）の中から、
昭和を感じさせる懐かしい記事をご紹介します。）



昭和の記憶

～あんとキの記事から～



季節保育所を開設

（広報うつのみや昭和44年6月1日号）

春の農繁期、田植や麦刈りに農家の大変忙しい時期です。そこで市は、6月28日まで春の季節保育所を平石地区（写真）をはじめ12カ所で開き、農家の幼児をお預りします。仲良く遊んでると思うと、泣き出したり、開所初日はてんやわんやの忙しさでした（原文のまま）。

（広報うつのみや昭和46年7月1日号）

農家が忙しい時期です。今年も清原・瑞穂野地区で3カ所の季節保育所を開きました。6月19日は清原北小の1年生約20人が保育所を訪問し、歌やゆうぎで子どもたちを楽しませました（写真は板戸公民館で）。

（一口メモ）「季節保育所」は、保育所が相対的に少ない農村部において、特別の保育対策として昭和32年から始まり、年2回の農繁期に市内各地区の学校や集会所などに設置されました。現在は、公・私立併せて82園（認定こども園を含む）の保育所などが子どもの健やかな成長を支援しています。